

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会 (恵那市・中津川市)

平成20年3月21日 設置

令和 4年2月10日 明知鉄道沿線地域公共交通計画 改訂
(計画期間：平成31年度～令和8年度)

令和 5年1月10日 フィーダー系統確保維持計画 修正

令和 6年1月18日 令和5年度評価結果送付

【沿線地域の特性】

- ・ 恵那市・中津川市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・ 恵那市の人口は46,948人、中津川市阿木地域の人口は1,969人（令和5年12月1日現在）

明知鉄道沿線地域公共交通計画

（計画期間：令和元年～8年度）

【基本的な方針】

多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

計画の目標



- 目標 **1** 公共交通を「支える」「活用する」
地域住民の活動促進

- 目標 **2** 持続可能な地域公共交通
ネットワークの形成

- 目標 **3** 域外から来た人や高齢者が抵抗なく
自然に移動できる環境の整備



2.【Do】目標達成に向けた取組み状況

◆ 目標達成のための事業内容 ◆ ●●● 具体的取組有り

目標	施策	事業	R5達成状況	R5取組状況
【目標1】 公共交通を「活用する」市民の意識づくり 公共交通を「支える」地域住民の活動促進	1.公共交通を「活用する」市民の意識づくり	1.観光列車やイベントでの市民による活動	○	鉄道の乗客を園児や地元団体がお出迎え
		2.地域イベントと連携した公共交通の活用	○	JRウォーキング、FDG、大正村フォトログ、みのじのみのり祭り、全国山城サミット、WRC、光秀誕生日等と連携
		3.SLの復元を通じた地域づくり	○	SL乗車体験(年5回 436名参加)、ふれあいイベント300名参加 SLファンクラブ加入促進
		4.待合時間を有効活用できる結節点	○	7月より商業施設2Fに「恵那未来キャンパス」開設。20時まで利用可能
	2.公共交通を「支える」市民の活動促進	1.明知鉄道が有するさまざまな価値の発信	○	明知鉄道連絡協議会、交通会議にて情報発信、高校生ポスター制作(駅舎掲示)
		2.沿線環境の整備	●	地域住民による景観整備、阿木高、恵那農業高生による駅舎装飾
		3.収入源の拡大	○	グリーン会員証、明知鉄道1日乗車券(市内バス無料)の販売
		4.モビリティマネジメントの推進	●	12月公共交通シンポジウムの開催、公共交通利用促進ブック制作配布、バス乗り方動画の配信、公共交通乗り方教室の開催
【目標2】 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	1.地域全体の総合的な公共交通ネットワークの形成	1.恵那駅周辺での循環線の新設	●	まちなか巡回バス、シェアサイクルの運行拡充
		2.バス路線の見直し	●	上矢作地区、明智地区、旧恵那市区、まちなか線の見直し
		3.明知鉄道の1時間1本化	●	準パターンダイヤ一部設定、交通コンシェルジュ受託、バス事業開始
	2.快適な公共交通利用環境の整備	1.施設の更新	○	鐵道施設の整備、バス車両の更新
		2.P&R、サイクルトレインの推進	✖	未検討
		3.鉄道・バス共通1日乗車券の発売	△	明知鉄道1日乗車券(市内バス無料)の販売 今後鉄道も含めて検討
	3.関係者との連携強化	1.恵那峡線・大井町東線・大井町西線・明智線の改善・利用促進	○	恵那峡線、大井町東・西線を地域公共交通会議の協議路線とし今後一体的な利用促進を実施する
		2.隣接自治体との関係強化・組織間ネットワークの充実	○	令和5年度より明智線を維持するため、東濃鉄道・恵那市・瑞浪市で協定締結
	【目標3】 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	1.当地域に適したMaaSの実現	1.運賃のキャッシュレス化	●
2.人とアプリによる「交通コンシェルジュ」			●	恵那市交通コンシェルジュ(人・WEB)をR4/10月から運用開始し拡充
3.日帰り旅コースの設置・運用			●	市交通コンシェルジュ内で公共交通を利用した「小旅」コースを設定
4.定額制乗り放題運賃・年間パスポート			●	市内バス1日乗車券をR5/3月発売。ワンコインパスポートの発売
5.モードを跨いだ運賃設定			●	市自主運行バスと東濃鉄道営業路線の運賃の統一をR5/3月に開始
6.移動データの取得			●	AI画像認識技術で映像を数値に変換した移動データの可視化を導入
2.バリアフリー化を通じたサービスアップ(現状維持から発展へ)		1.駅舎などのバリアフリー化	✖	未検討
		2.ボランティア車掌の創設	✖	未検討
		3.外国語案内・バス系統番号の表示	○	コンシェルジュサイト内一部外国語対応。バス系統番号を全バス車両に設置
3.観光列車の推進		1.観光列車と広報・周知の充実	○	乗り方教室や料理列車、イベント等でチラシの配布
		2.観光列車やイベントでの市民による活動(再掲)	○	事業1-1-1

◆ 具体的な取組内容1 沿線地域住民の意識醸成・共有 ◆

目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

【沿線環境の整備・SLの復元を通じた地域づくり】

- ★毎年**高校生による駅装飾活動**等により、乗客の駅での滞在時間が長くなった
 - ・阿木高校・・クリスマスに合わせて駅装飾及び待合室の座布団設置
 - ・恵那南高校・・明知鉄道応援プロジェクトでポスター制作
 - ・恵那農業高校・・季節ごとに恵那駅に季節に合わせた植栽
- ★**SL復元検討委員会設置**(R5/11)R6末までに調査・検討し復元の可否の判断をする。



【モビリティマネジメントの推進】

- ★**公共交通シンポジウム（年1回開催）**を開催し、沿線住民に向けて公共交通の実態を知ってもらう、考えてもらうきっかけ作りを行う。R5年度は明智会場で実施し、150名の参加を見込んでいたが200名を超える参加。路線再編をした地域でもあり、感心の高さが窺えた
- ★恵那市の**公共交通利用促進冊子（沿線公共交通機関、時刻、運賃、乗り方等）**を作成し11月に全戸配布。また、**バスの乗り方動画をYouTube等で配信**し利用促進を図った
- ★冊子及び動画などを活用して状況に応じた**バスの乗り方教室**を実施
 - 小学校・・2校 ○路線再編地区等・・15回 ○イベント・・5回



◆ 具体的な取組内容2 交通体系の整備・官民共創 ◆

目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

【恵那駅周での循環線新設】

- ★昨年6月 **まちなか巡回バスの運行開始**。日常使いに定着し、対前年比30%増加
- ★昨年8月、公共交通機関を補完する目的で **シェアサイクルを設置**
日常使いに定着し、対前年比15%増加 **更なる効果として観光利用に使われていることがわかったため、10月から新たに観光地にステーションを増設**
ステーション数・・・当初5箇所設置⇒現在13箇所に増設。



【バス路線の再編】

- ★旧恵那地域 市内は新規4路線、路線延長5路線
- ★阿木地域 小学生が乗車できる時間帯に変更
- ★明智地域 **まちなか巡回線とデマンド路線の導入**
- ★上矢作地域 **デマンド路線の導入**
- ★民間のバス路線を交通会議の協議路線化

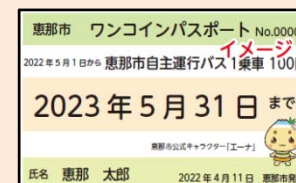
地域と協議を重ね再編

※明智・上矢作地域はフィーダー路線



【恵那市バス運賃の見直し】

- ★運賃の統一 市内1乗車200円（デマンド交通300円） ←距離制運賃を市内全路線統一
- ★定期券の再設定 **バス定期1ヶ月5,000円**（←最大18,000円だった）
- ★運賃の割引 75歳以上と免許返納者に対して**ワンコインパスポートの発行**
年間2,000円のパスポートを購入し提示すると1乗車100円
（免許返納者は1回に限り無料でパスポート贈呈）
市内バス1日フリー乗車券販売 500円
明知鉄道1日フリー切符で当日に限り、市内バス全路線も1日無料で乗車



【明知鉄道の機能強化】

- ★運行時刻の**準パターンダイヤ一部設定**
- ★恵那市の交通総合案内所「**恵那市交通コンシェルジュ事業**」を受託
- ★**一般乗合旅客自動車運送事業を開始**し恵那市自主運行バスの明智地区路線の運行を令和5年4月1日より開始

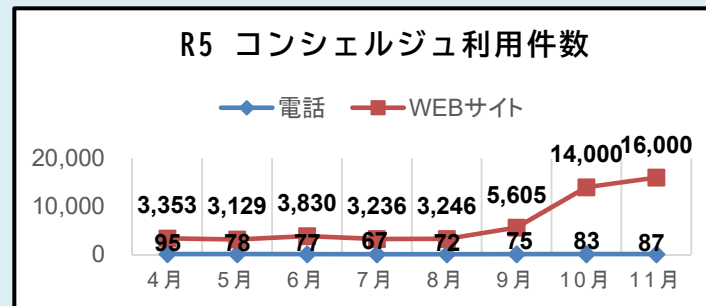


◆ 具体的な取組内容3 移動環境の整備・周知 ◆

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

【人とWEBによる「交通コンシェルジュ」の設置】

公共交通の利用促進・利便性向上のため、R4年10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシェルジュ」を開設



● 恵那市交通コンシェルジュ ポータルサイト
<https://www.ena-transportal.net>



● 恵那市交通コンシェルジュ 公式LINEアカウント
<https://lin.ee/lFmVNEm>

【移動環境の整備】

- ★明知鉄道 恵那駅、岩村駅、明智駅にデジタルサイネージの設置
- ★バス1日フリー乗車券のオンライン決済及びデマンドバス予約のオンライン化（コンシェルジュサイト）
- ★バス車両に路線番号を表示
- ★恵那市内全バス停にバス停ごとの二次元バーコードシールを設置
- ★バス車両入にカメラを設置し、AI画像認識技術による映像を数値に変換した移動データを可視化して路線再編等に活用
- ※R6年1月から、明知鉄道の全車両に同様のカメラを設置
- ★複数事業者が設置している同名バス停を1本化し、時刻表を見やすく整理



3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

地域公共交通計画における目標

・明知鉄道沿線地域公共交通計画に定めてある評価指標により確認を行う。

アウトプット指標		H29実績		R4実績	R5実績	R8目標値		達成度
目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6団体	→	7団体 (R3実績)	7団体 (R4実績)	11団体	→	63%
	ボランティア運転手養成講座の参加者数	0人/年	→	16人/年 (R3実績)	37人/年 (R4実績)	30人/年	→	123%
目標2 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数	7校	→	7校	8校	9校	→	89%
	自主運行バス利用者 満足度	94.6%	→	95.1%	97.0%	96.0%	→	101%
目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	観光による公共交通利用者数 (観光列車、日帰り旅コース) (4月～翌年3月締)	16,222人	→	3,999人 (R3実績)	12,840人 (R4実績)	16,000人	→	80%
	グリーン会員証の発売枚数 (4月～翌年3月締)	963枚	→	676枚 (R3実績)	733枚 (R4実績)	900枚	→	81%
	うち 上矢作地区(フィーダー) 明智地区(フィーダー)	24枚 260枚		13枚	20枚 205枚	30枚 260枚		67% 79%

アウトカム指標	H29実績		R4実績	R5実績	R8目標値		達成度
1. 基幹路線(明知鉄道)の年間利用者数 (4月～翌年3月締)	380,889人/年 定期外162,489人/年 通勤定期14,040人/年 通学定期204,360人/年	→	253,354人/ 定期外96,366人/年 通勤定期11,628人/年 通学定期145,360人/年 (R3実績)	272,087人/ 定期外128,967人/年 通勤定期10,990人/年 通学定期132,130人/年 (R4実績)	384,000人/年	→	71%
2. 広域幹線・幹線・市街地循環線の年間利用者数 (前年10月～9月締)	220,117人/年	→	119,561人/年 (R4実績)	104,661人/ (R5実績)	204,000人/年	→	51%
3. 地域路線の年間利用者数 (前年10月～9月締)	117,732人/年 (達成度97%)	→	84,386/年 (R4実績)	78,967/年 (R5実績)	101,000人/年	→	93%

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

		利用者数（単位：人）					収支率（目標値20%）			満足度（目標値96%）				自己評価	
		R3年度	R4年度	R5年度	R8目標値	達成率	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
全体（広域幹線を除く）		143,111	137,641	115,703	182,000	63.6%	19.1%	15.3%	10.4%	91.0%	83.1%	95.1%	97.0%	B ₂	
自主 運 行 バ ス	旧 恵 那 地 区	大井長島地域 (市街地地区)	19,366	19,154	19,807	21,217	93.4%	19.8%	27.0%	12.9%	100%	79.5%	95.5%	96.0%	B ₂
	東野地域	297	732	697	752	92.7%	5.9%	6.9%	6.5%	100%	100%※1	100%	100%	B ₂	
	三郷地域	14,662	15,224	14,287	23,925	59.7%	37.1%	19.1%	17.7%	83.3%	100%	100%	100%	B ₂	
	武並地域	15,436	14,022	11,960	17,772	67.3%	33.0%	28.0%	19.1%	83.3%※1	100%	100%	100%	B ₂	
	笠置地域	15,651	14,658	10,979	17,808	61.7%	30.0%	20.7%	16.2%	100%※1	100%※1	100%	100%	B ₂	
	中野方地域	20,911	22,564	20,585	31,626	65.1%	31.7%	35.8%	24.6%	76.9%	100%	100%	100%	B ₂	
	飯地地域	5,306	5,271	4,693	6,100	76.9%	23.4%	22.6%	10.9%	83.3%※1	83.3%※1	90.5%	90.8%	B ₂	
	岩村地域	224	132	62	311	20.0%	13.0%	11.1%	10.5%	83.3%	100%	100%	100%	B ₂	
	山岡地域 (内数デマンド)	4,254 (705)	4,271 (629)	3,661 (582)	4,236	86.4%	5.7% (22.1%)	5.8% (22.4%)	4.5% (13.9%)	75.0%	75.0%※1	75.0%	80.0%	B ₂	
	【フィーダー】 明智地域 上期 下期(内数デマンド)	24,010	20,328	9,178 8,556 622 (120)	29,512	31.1%	23.0%	21.5%	7.3% (4.5%)	100%	85.7%	100%	100%	B ₂	
串原地域	9,287	8,398	8,482	9,630	88.0%	6.0%	6.0%	6.1%	100%	100%	100%	100%	B ₁		
【フィーダー】 上矢作地域 上期 下期(内数デマンド)	9,892	8,448	6,898 3,800 3,098 (99)	15,232	45.3%	5.4%	5.4%	3.9% (5.2%)	100%	66.6%	80.0%	88.0%	B ₂		

※1 回答が無かったため追加調査による。

評価基準

A : 利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合
 B₂ : 利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合

B₁ : 利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
 C : 利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

		利用者数（単位：人）					収支率（目標値20%）			満足度（目標値96%）				自己評価
		R3年度	R4年度	R5年度	R8目標値	達成率	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
有償運送	阿木地域	1,717	2,606	2,356	1,754	134.0%	5.8%	7.1%	6.1%	100%	100%	100%	100%	B ₂
	いいじ里山バス	1,403	1,211	1,372	1,244	110.2%	7.7%	7.4%	4.0%	100%	100%	100%	100%	B ₂
	くしばす	695	622	686	881	77.9%	4.3%	4.8%	5.9%	100%	83.3%	100%	100%	B ₁

評価基準 A：利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合 B₁：利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
 B₂：利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合 C：利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

目標達成状況についての考察

- ・ R5年度は4月に大幅な路線再編を実施し、上期(R4/10-R5/3)は旧路線、下期(R5/4-R5/9)は新路線となり、前年との比較が難しい状況である。
- ・ 大幅に利用者数が減少した明智地域路線（フィーダー系統路線）は、路線再編により小中学生が通学利用していた定時定路線、年間20,000人ほどが**スクールバスに移行**したことにより通年の半数に減少している。しかし、再編後は、まちなか巡回及び地域からのデマンドにより一般利用が徐々に浸透し増加傾向にある。
- ・ 上矢作線（フィーダー系統路線）及びその他の路線については、少子化により**通学利用者の減少**に伴い利用者数が減少している。
- ・ （基幹路線）明知鉄道の利用者数は、前年より107%と増加傾向であり、観光による公共交通利用者数も増加し、コロナ前の利用者数である目標値に近づいてきている。しかし、通勤や通学は減少傾向であり、これは、**人口減少やライフスタイルの変化等**が影響していると考察する。今後もバスと連携し、時刻や路線再編により公共交通を利用した通学可能な中学を増やしたり、高校生の通学支援策により、利用できる環境を整える必要がある。
- ・ 明知鉄道のグリーン会員証は、**地域協議会や民生委員協議会、壮健クラブ等での周知**により前年より増加。
- ・ （広域～地域路線）バス利用者数は、前年より減少傾向（原因は前述）にあるが、公共交通を利用する団体やバス利用者満足度は、維持又は増加傾向である。現在の利用者数は、昨年度同月より増加傾向にあり、R6年度の年間利用者数は約132,000人以上を見込んでいる。利用者の満足度だけでなく、不満等にも注視し、各地域と協議を行い改善して、路線再編や整備した移動環境を更にPRして利用者の拡大を図る必要がある。

今後の取組方針

- ・ R5年4月から大幅な路線再編を行ったことから、バス乗り方教室やイベントを通じて**モビリティマネジメントの取組み**を積極的に行う。また、1年経過後に効果などから令和6年度中に**目標値の見直し**を行う。
- ・ **移動可視化データ**を活用して、鉄道・バス・タクシーなど**複数の交通モード**によって公共交通網を**一体的に構築**し、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指す。



目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

- ・ 公共交通シンポジウムの開催 12月
- ・ 乗り方教室（地域・学校・イベント）の開催・・・通年
- ・ 公共交通を活用した**スタンプラリー**の開催・・・3月から
- ・ 高校生とコラボした**公共交通利用促進PR活動**



目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

- ・ **移動可視化データ**による、一体的な交通ネットワークの再編（バス・鉄道・シェアサイクル）
- ・ 上矢作線、明智地域路線の再編
- ・ 高校生の通学支援
- ・ シェアサイクルのステーション検討（利用可視化データを基にステーションの移設や増設等）
- ・ **共通乗車券の検討**（JR、明知鉄道、バス、タクシー）

地域と共に検討

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

- ・ 恵那市交通コンシェルジュの機能強化と拡充
 - ・ 高齢者等「お手軽**デマンドバス予約機能**」の追加
 - ・ **スタンプラリー機能追加**
 - ・ **公共交通を利用した旅コースの増設**
- ・ **各施設と連携**した利用促進（周知、スタンプラリー、お得利用策）



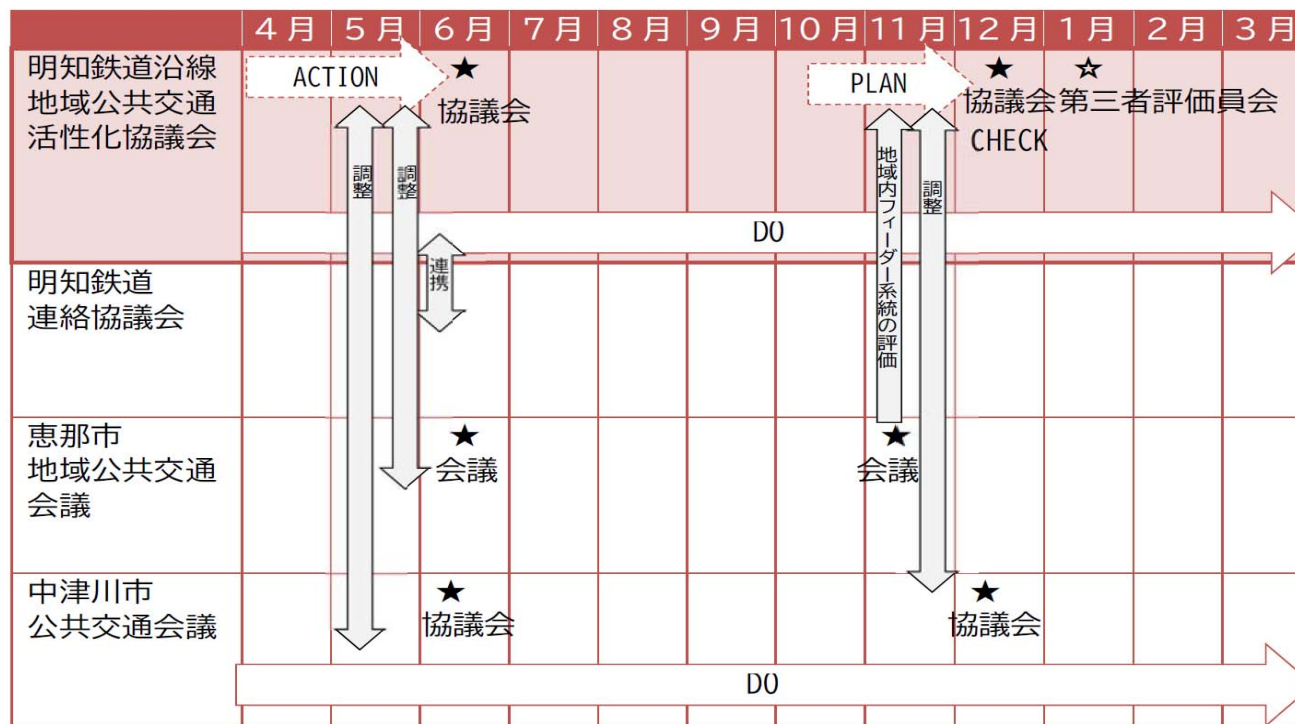
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	引き続きイベントの開催や企画乗車券の発行、交通コンシェルジュの周知など、利用促進に努めていただくことを期待します。	モビリティマネジメントの推進として、シンポジウムの開催、公共交通利用促進冊子の制作配布、バスの乗り方動画の配信を行った。また、冊子や動画を用いて乗り方教室や高齢者が集うサロン、小学生を対象に広く周知を行った。	これまでの利用促進に加えて、交通コンシェルジュからの意見を反映させることや新たな周知方法を加えるなど、更なる利用促進の充実に努める。
	次年度運行開始を予定している明智地域のバスについては、利用状況を確認し、継続的に見直しを行うことをご検討ください。	移動可視化データ、及びコンシェルジュ委託事業からの毎月の報告書を基に利用状況を把握し、運行委託事業者と毎月定例会を開き改善に向けた検討をしている。	地域や利用者からの意見、移動可視化データ、委託事業者からの提案を基に改善案を作成し、地域と一緒に検討を行う。
	令和5年度3月以降に予定しているわかりやすい運賃の仕組みの導入に向けては、住民や利用者の周知をしていただき、持続可能な交通ネットワークの構築につながることを期待します。	これまでの運賃は距離制や区間制と様々な体系で非常に分かりにくかったことから、分かりやすく利用しやすい運賃制度に見直しを行った。市広報やHP掲載に加えて、市議会への情報提供や報道発表、地域自治区への説明会、民生委員会や壮健クラブの会議で説明を行い周知徹底を図った。	住民や利用者への周知は継続することが重要であると考え、引き続きHPや広報誌、各種イベント等でのPRなど多様な手段により周知を図る。

※前回：令和5年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	次年度以降に予定しているわかりやすい運賃の仕組みや交通コンシェルジュの導入に向けて、地域の関係者との協議を踏まえ、利便性が高く、持続可能な交通体系が実現することを期待します。	令和4年10月より、公共交通の利用促進・利便性向上のため、10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシェルジュ」を開設。ポータルサイトでは、バスの予約、位置情報、経路検索、観光案内、お得情報を掲載して運用を開始した。	1日乗車券等のオンライン決済やAI画像認識技術を駆使して映像を数値に変換した移動データの可視化を導入している。来年度以降は取得困難であった、バス・鉄道の乗降データとシェアサイクルの利用データも含めて分析し、路線再編等に活用していく。
	新設を予定している「まちなか循環線」については運行開始後に、利用状況を確認し、継続的に見直しを行うことをご検討下さい。	令和4年6月よりまちなか巡回バスの運行を開始した。また、まちなか巡回バスを補完する目的でシェアサイクルを8月より導入した。利用データを基に鉄道との接続や時刻再編を行った。	まちなか巡回バス及びシェアサイクルの利用データを基に路線再編を行う。
	明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画に基づき、明知鉄道の利便性向上を着実に実施し、JR中央本線との接続改善や支線交通手段との連携強化を進めることを期待します。	計画に基づき、鉄道、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指すために、路線及び運賃の再編の検討を行った。	令和5年3月のJR中央線時刻改正に合わせて、大きく時刻再編と運賃の改正を行い利便増進を図る。

※前々回:令和4年3月10日

計画の評価と検証 計画の評価・検証、改善策の検討は、毎年年度末・年度はじめに開催される明知鉄道沿線 地域公共交通活性化協議会の場で実施。具体的には、計画の目標で定めた成果指標だけでなく、それを実現するための「路線単位での評価」についても確認を行う。目標値が達成できていない場合は、その要因を分析し、改善策を検討するPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）により実施する。



【協議会の実施状況】

第47回協議会（令和5年度第1回）令和5年5月25日

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 主な議題 ・前年度事業報告並びに収支決算報告 ・地域公共交通確保維持改善事業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業計画（案）並びに予算（案） ・明知鉄道生活交通改善事業計画 |
|--|--|

第48回協議会（令和5年度第2回）令和6年1月11日

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 主な議題 ・明知鉄道沿線地域公共交通計画の改定 ・令和6年度活動方針（案） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通確保維持改善事業評価 |
|---|---|

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会 地域公共交通計画の評価等結果（令和4年10月～令和5年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
【目標1】 公共交通を「支える」 「活用する」地域住民の 活動促進	公共交通を「活用」する 団体数	地域イベント等との連携に より住民や観光客に公共交 通を活用してもらう。	各団体の記録 データの確認	達成状況：7団体 達成度：63% 分析：地域のイベントと連携を計画していたが、コ ロナ禍により達成することができなかった。	アフターコロナに向けた取組みとして、1 日フリー切符などを周知しながら、地域イ ベントと連携を図る。
	ボランティア運転手養成 講座の参加者数	交通空白地有償運送等の運 転手の養成講座に係る費用 を支援する。	実績報告の審査	達成状況：37人／年 達成状況：123% 分析：地域の支え合い活動の一つとして、運営を地 域住民が主体となっているのが定着してきたと考察 する。	引き続き養成講座に要する費用の支援し、 地域で安心安全で運行できるよう地域の意 見を聞きながら継続させていく。
【目標2】 持続可能な地域公共交通 ネットワークの形成	公共交通などで、沿線4 高校に通える中学校数	路線の再編、時刻や運賃の の見直しを行う。	通学可能な運行 設定	達成状況：8校 達成状況：89% 分析：地域の意見を基に、路線再編を実施したこと により、前年度より1校増加することができた。	利用しやすい時間・運賃に設定したことも 加えて、学校を通じて周知を図り、目標達 成に向けて取り組む。高校生通学支援を検 討する。
	自主運行バス利用者 満足度	バス利用者の意見を聴き、 抵抗なく安心して利用でき る環境を整える。	バス利用者や駅 周辺の聞き取り 調査を実施	達成状況：97.0% 達成状況：101% 分析：地域の協力を得ながらの路線再編であったた め、目標以上の満足度につながった。	全体の満足度でなく、不満、やや不満との 意見にも注視し、各地域と協議を行い改善 に取り組む。可視化データを活用し、ニー ズに応じた路線再編を行う。
【目標3】 域外から来た人や高齢者 が抵抗なく自然に移動で きる環境の整備	観光による公共交通利用 者数（観光列車、日帰り 旅コース）	明知鉄道が行った料理列車 や企画列車、バスツアーの 設定・運営	観光ツアー等の 聞き取り調査	達成状況：12,840人 達成状況：80% 分析：目標には達していないが、前年より3倍の実 績となっている。	観光客もコロナ前の状態に戻りつつあるの で、外国人を含めた来訪者が抵抗なく自然 に移動できる環境を整える。交通コンシ ェルジュの機能拡大。
	グリーン会員証の発売枚 数	明知鉄道が発行するグリー ン会員証の増加により、収 入減の拡大を図る。	実績報告の審査	達成状況：733枚 達成状況：81% 分析：前年度より増加傾向にあるが、人口減少やラ イフスタイルの変化等が影響していると考察する。	高齢者が集うサロンや壮健クラブ等で周知 を図るとともに、地域住民による鉄道を支 える機運の醸成も図る。

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

協議会名： 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	(1)上矢作線 (横道車庫→道の駅-岩村駅前)	前回の事業評価における改善点を踏まえて、次の事業を実施した。 地域路線の見直し方針（恵那市地域公共交通計画）を基に、地域意向の把握・分析をしながら移動支援検討会と検討を重ねた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 【定量目標】 ○バス利用者アンケートの満足度を令和5年度目標値となる数値とする。 目標値（満足、やや満足の合計）96.0% の目標値に対して、本年度（R5）は97.0%となった。	満足度は、H29年度の94.6%を基準としているが、今後目標値が適正であるか検討し、見直しを行う。 コロナ禍に伴う新たな生活様式への社会情勢の変化により、移動可視化データを活用して、地域住民、来訪者の利用者ニーズに応じた路線再編を検討する。 グリーン会員証は地域協議会や民生委員協議会、社健クラブ等でPRをしている。引き続き高齢者が集うサロンなどを通して周知を図る。 住民や利用者への周知は、引き続き多様な手段により周知を図り、公共交通に対する意識を高め、さらなる利用促進を図り、地域と共に持続可能な地域公共交通を目指す。
	(2)上矢作線 (押山-横道車庫-岩村駅前)	【見直し方針】 ・定時定路線を走らせつつ、デマンド交通を含めた新たな移動手段の検討する。 ・現在バスが走っていない地区への運行の検討する	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(3)上矢作線 (大野-上矢作振興事務所前-岩村駅前)	【再編内容】 ・朝・夕は現在の路線（定時定路線）を維持 ・昼間（9時台～15時台）のみデマンド交通を導入 <u>令和5年4月から乗り継ぎを考慮したデマンド運行を含めた運行に再編した</u>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(4)上矢作線 (大野-横道車庫-岩村駅前)	【利用促進】 ・広報及び地域広報にて変更内容の周知 ・バス乗り方教室の実施 ・高齢者公共交通利用支援事業として、公共交通利用チケットを配布 ・ワンコインパスポートを発行。 ・公共交通利用促進ブックを全戸配布	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(5)上矢作線 (横道車庫→道の駅-パロー岩村店)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(6)上矢作線 (大野-押山-パロー岩村店)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(7)上矢作線 (パロー岩村店→道の駅-押山)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
明知鉄道株式会社	(8)明智まちなか線 (明智駅前-おおさわ医院-明智駅前)	地域路線の見直し方針（恵那市地域公共交通計画）を基に、地域意向の把握・分析をしながら移動支援検討会と検討を重ねた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(9)明智まちなか線 (明智駅前-滝坂-おおさわ医院-明智駅前)	【見直し方針】 ・これまでの通学に特化した定時路線をきめ細かに対応できるよう検討。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(10)明智まちなか線 (明智駅前-おおさわ医院-明智駅前-滝坂-新町-明智駅前)	【再編内容】 ・朝・夕は現在の路線（定時定路線）を維持 ・昼間（9時台～15時台）のみデマンド交通を導入	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(11)明智まちなか線 (明智駅前-おおさわ医院-明智駅前-滝坂-明智駅前)	<u>令和5年4月から乗り継ぎを考慮したデマンド運行を含めた運行に再編した</u>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(12)明智まちなか線 (明智駅前-片平-明智駅前-おおさわ医院-明智駅前)	【利用促進】 ・広報及び地域広報にて変更内容の周知 ・バス乗り方教室の実施 ・高齢者公共交通利用支援事業として、公共交通利用チケットを配布。 ・ワンコインパスポートを発行。 ・公共交通利用促進ブックを全戸配布。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(13)明智まちなか線 (明智駅前-おおさわ医院-明智駅前-片平-おおさわ医院-明智駅前)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(14)明智まちなか線 (明智駅前-おおさわ医院-明智駅前-片平-明智駅前)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(15)明智デマンド線 (野志・杉野地区)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(16)明智デマンド線 (阿妻・横通地区)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(17)明智デマンド線 (吉良見・大泉地区)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
	(18)明智デマンド線 (東方地区)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	